

M3T-MR100/4 V.1.00 Release 00ご使用上のお願い

M16CファミリR32Cシリーズ用リアルタイムOS M3T-MR100/4 V.1.00 Release 00の 使用上の注意事項を連絡します。

- pol_semおよびipol_semサービスコールの使用に関する注意事項
- 周期ハンドラおよびアラームハンドラの使用に関する注意事項

1. pol_semおよびipol_semサービスコールの使用に関する注意事項

1.1 内容

セマフォカウント値が0であるセマフォを対象に、pol_semもしくはipol_semサービスコールを呼び出した場合、戻り値としてE_TMOUTが返されず、E_OKが返される場合があります。その時、0であるべきセマフォカウント値が65535になります。

1.2 発生条件

以下の条件をすべて満たす場合に発生します。

- (1) セマフォカウント値が0であるセマフォを対象に、pol_semもしくはipol_semサービスコールを呼び出している。
- (2) (1)項のセマフォの、次のID番号を持つセマフォのセマフォカウント値が0ではない。

1.3 回避策

以下のいずれかの方法で回避してください。

- (1) iref_semサービスコールを使用してセマフォカウント値が0であることを確認してから、ipol_semサービスコールを呼び出す。

例

```
-----  
void inh1(void)  
{  
    T_RSEM pk_rsem;
```

```
.....  
iref_sem(sem_ID1,&pk_rsem);  
if ( pk_rsem.semcnt != 0){  
    ipol_sem(sem_ID1);  
}  
.....  
}
```

注：回避コードを実行中に、多重割り込みによるセマフォ状態が変化しないことを想定した例です。

(2) タイムアウト値としてTMO_POLを設定し、twai_sem サービスコールを呼び出す。

例

```
-----  
void task1(VP_INT exinf)  
{  
.....  
twai_sem(sem_ID1,TMO_POL);  
.....  
}  
-----
```

1.4 恒久対策

次期リビジョンアップで改修する予定です。

2. 周期ハンドラおよびアラームハンドラの使用に関する注意事項

2.1 内容

周期ハンドラもしくはアラームハンドラを128以上定義した場合、アプリケーションビルド時にアSEMBルエラーが発生します。

2.2 解決策

周期ハンドラもしくは、アラームハンドラの定義数は127以下にしてください。

2.3 恒久対策

次期リビジョンアップで改修する予定です。

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。
ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。

© 2010-2016 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.